

平成29年度  
海田町教育委員会点検・評価報告書  
(平成28年度対象)

海田町教育委員会

# 目 次

I	教育委員会の活動状況	1
II	教育委員会の点検・評価	5
	<b>【学校教育課】</b>	
	確かな学力の育成	6
	学力向上事業	8
	教育指導員配置事業	10
	グローバル人材育成事業	11
	豊かな心の育成	13
	心の元気を育てる地域支援事業	15
	青少年サポート事業	16
	競技力向上対策事業	17
	こども議会運営事業	18
	児童生徒の安心・安全の確保と質の高い教育環境の整備	19
	小中学校安全管理事業	20
	小中学校耐震補強事業	21
	ICT環境整備事業	22
	<b>【生涯学習課】</b>	
	生涯学習の推進	23
	公民館管理運営事業	24
	公民館主催講座事業	25
	公民館整備事業	27
	図書館管理運営事業	28
	蔵書整備事業	30
	地域文化の継承と創造	31
	文化財保護事業	32
	芸術文化振興事業	34
	青少年の健全育成	35
	放課後子供教室事業	36
	青少年育成事業	37
	スポーツのまち・海田づくり	38
	スポーツ振興事業	39
	織田幹雄顕彰事業	40
III	総括	41
IV	評価委員の点検・評価	42

## I 教育委員会の活動状況

### 1 教育委員会委員

本町教育委員会は、町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4名の教育委員により構成されています。平成29年3月31日現在の教育委員は、次のとおりです。

教育委員の区分	性別	内 訳
教育長	男	元教育関係者
教育長職務代理者	男	教育関係者
委 員	女	元行政関係者
委 員	男	保護者
委 員	女	元教育関係者

### 2 教育委員会会議の開催状況

定例会 12回, 臨時会 2回

### 3 教育委員会会議での審議状況

議題件数 56件

(内訳) 議案 17件, 報告協議 39件

開催日	議案・報告等	件 名
4月11日	報告協議第9号	海田公民館整備特別委員会について
	報告協議第10号	各行事の開催及び結果等について
5月16日	議案第15号	平成28年6月定例議会補正予算案について
	議案第16号	海田町社会教育委員の委嘱について
	議案第17号	海田公民館運営審議会委員の委嘱について
	報告協議第11号	海田公民館整備計画について
	報告協議第12号	生涯学習課年間スケジュールについて
	報告協議第13号	平成27年度小中学校卒業生の進路状況について
	報告協議第14号	各行事の開催及び結果等について
6月20日	報告協議第15号	平成28年度学校経営計画について
	議案第18号	平成29年度使用小中学校教科用図書のうち、学校教育法附則第9条の規定による図書に係る採択基本方針について
	議案第19号	海田町教育支援委員会規則の一部を改正する規則の制定について
	報告協議第16号	平成28年6月議会について
	報告協議第17号	海田町学校教育意識調査について
	報告協議第18号	各行事の開催及び結果等について

7月20日	報告協議第19号	平成28年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果について
	報告協議第20号	町制施行60周年記念事業について
	報告協議第21号	各行事の開催及び結果等について
8月30日	議案第20号	平成28年9月議会補正予算案について
	議案第21号	平成29年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
	報告協議第22号	平成28年度海田町教育委員会点検・評価について
	報告協議第23号	町制施行60周年記念事業について
	報告協議第24号	海田公民館の整備について
	報告協議第25号	各行事の開催及び結果等について
9月26日	報告協議第26号	平成28年9月議会について
	報告協議第27号	学力調査の結果について
	報告協議第28号	海田町学校教育意識調査の結果について
	報告協議第29号	各行事の開催及び結果等について
10月17日	報告協議第30号	学力調査の結果について
	報告協議第31号	各行事の開催及び結果等について
11月4日	報告協議第32号	海田中学校生徒の逮捕事案の対応について
11月21日	議案第22号	平成28年海田町教育委員会点検・評価（平成27年度対象）について
	議案第23号	平成28年12月議会補正予算案について
	報告協議第33号	各行事の開催及び結果等について
12月12日	議案第24号	海田町立小学校及び中学校通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	報告協議第34号	平成28年12月議会について
	報告協議第35号	各行事の開催及び結果等について
1月18日	議案第1号	平成29年2月定例議会補正予算案について
	議案第2号	平成29年度当初予算案について
	報告協議第1号	教育長の職務代理者の指名について
	報告協議第2号	平成29年度夢未来ビジョンについて
	報告協議第3号	各行事の開催及び結果等について
2月17日	議案第3号	平成29年2月定例議会補正予算追加提案について
	報告協議第4号	平成29年2月議会について
	報告協議第5号	特別支援学級の状況について
	報告協議第6号	各行事の開催及び結果等について
3月16日	議案第4号	県費負担教職員の人事異動について

3月23日	議案第5号	町職員の人事異動について
	議案第6号	平成29年度使用特別支援学級用教科用図書採択変更について
	議案第7号	旧千葉家住宅管理運営規則の一部を改正する規則の制定について
	報告協議第7号	海田町就学援助支給要綱の一部改正について
	報告協議第8号	特別支援学級等の状況について
	報告協議第9号	通級指導教室の状況について
	報告協議第10号	海田町教育大綱の策定について
	報告協議第11号	平成29年度夢未来ビジョンについて
	報告協議第12号	各行事の開催及び結果等について

#### 4 その他の主な活動

##### (1) 会議等への出席

日時	名称	出席者	場所
4月25日	安芸郡4町教育長会議	教育長	府中町
4月13日 12月16日	広島県市町教育長会議	教育長	広島市
5月16日 7月21日 12月19日	西部教育事務所管内 教育長・部課長会議	教育長	呉市
		教育長	広島市
5月20日	広島県町教育長会定期総会	教育長	広島市
5月31日	広島県市町教育委員会連合会定期総会	教育長	広島市
7月11日 10月28日 2月27日	広島県女性教育委員研修会	委員	広島市 庄原市 広島市
7月22日	中国地区市町村教育委員会連合会定期総会	教育長	東広島市
8月18日 8月19日	中国五県町村教育長研究大会	教育長	山口県
10月5日	広島県町教育長会研修会	教育長	府中町
10月25日	広島県市町教育委員会教育委員研修会	教育長 委員(2名)	広島市
11月17日 11月18日	教育委員会委員視察研修	教育長 委員(4名)	愛知県
1月13日	安芸郡教育長・小学校長合同研修会	教育長	広島市

## (2) 主な式典・行事等

日 時	内 容	会 場
4月1日	教職員辞令交付式	ひまわりプラザ
4月6日	入学式	各小学校
4月7日	入学式	各中学校
1月9日	成人祭	海田公民館
3月11日	卒業式	各中学校
3月17日	卒業式	各小学校
3月31日	退職者辞令交付式	海田町役場

## (3) 公開研究会等

日 時	内 容	会 場
7月6日	町主催研修 ・「子どもや保護者の実情を踏まえた関わりのあり方について」	海田小学校
7月27日	町主催研修 ・「発達障害のある児童生徒の授業づくり」	ひまわりプラザ
8月8日	町主催研修 ・「織田幹雄の志を受け継ぐ」 ・「広島県『学びの変革』パイロット校事業パイロット校実践報告」	ひまわりプラザ
8月19日	グローバル・キャンプ	海田中学校
8月23日	町主催研修 ・「『学びの変革』のさらなる推進のために」	ひまわりプラザ
9月28日	町主催研修 ・「体力づくりにつながる運動遊び」 ・「児童生徒の体力・運動能力の定着と向上」	海田西中学校
10月19日	町主催研修 ・「主体的・協働的に学び、自分の考えを表現する児童生徒の育成」	海田東小学校
11月25日	町主催研修 ・「小学校の『慣れ親しみ』を中学校の『表現・理解の能力』につなげる小中連携のあり方」	海田西小学校
1月25日	町主催研修 ・「主体的な学びを通して思考力・表現力を育成する授業の創造」	海田西中学校 海田西小学校
2月15日	町主催研修 ・「主体的に学ぶ児童の育成 －『課題発見・解決学習』の授業づくりを通して－」	海田西小学校

## II 教育委員会の点検・評価

### 1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見を活用した自己点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに住民に公表することとされている。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすことを目的としている。

### 2 対象年度

平成 28 年度

### 3 評価の実施時期

平成 29 年 5 月～ 内部評価

平成 29 年 8 月 外部評価 評価者：広島大学大学院教育学研究科

教授 曾余田 浩史

### 4 評価対象及び評価基準

本町では、平成 23 年度から第 4 次総合計画に基づき施策を展開している。それに基づき教育委員会が実施した事業のうち重点施策と位置付けた事業を評価対象とした。

#### 評価基準

A…十分に達成している（達成率 80%以上）

B…おおむね達成しているが、改善の余地がある（達成率 50%以上～80%未満）

C…事業内容の見直し、改善が必要（達成率 50%未満）

### 5 各施策・事業の評価

#### 学校教育課（P6～P21）

確かな学力の育成

豊かな心の育成

児童生徒の安心・安全の確保と質の高い教育環境の整備

#### 生涯学習課（P22～P39）

生涯学習の推進

地域文化の継承と創造

青少年の健全育成

スポーツのまち・海田づくり

施策

確かな学力の育成

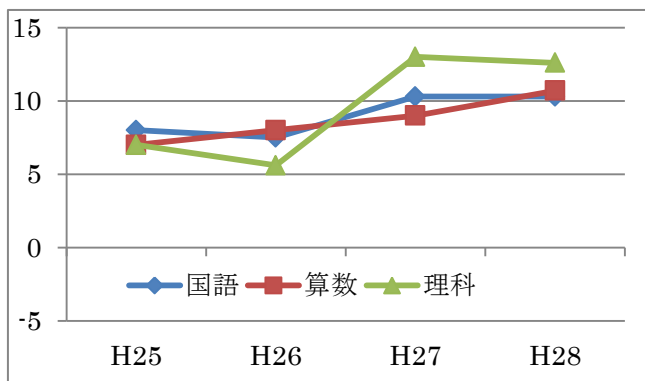
取組と成果

平成 28 年度は、広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に即して、児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を目指し、次のような取組を行った。

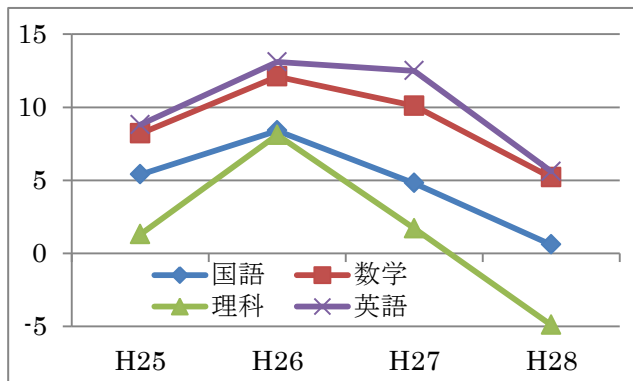
- (1) 教師がより質の高い授業ができるよう研修を実施し、指導力の向上を図った。
- (2) 児童生徒の状況に応じたきめ細かな授業が行えるよう、人員を配置した。
- (3) 外国語活動や外国語科の充実により、国際化社会へ対応力の向上を図った。

広島県「基礎・基本」定着状況調査通過率の広島県平均との比較

	教科	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
小学校	国語	+8.0	+7.5	+10.3	+10.3
	算数	+7.0	+8.0	+9.0	+10.7
	理科	+7.0	+5.6	+13.0	+12.6
中学校	国語	+5.4	+8.4	+4.8	+0.6
	数学	+8.2	+12.1	+10.1	+5.2
	理科	+1.3	+8.1	+1.7	-4.9
	英語	+8.8	+13.1	+12.5	+5.6



広島県「基礎・基本」定着状況調査通過率の  
広島県平均との比較  
(小学校)



広島県「基礎・基本」定着状況調査通過率の  
広島県平均との比較  
(中学校)



重点的に取り組んだ事業			
事業名	内容	評価	頁
学力向上事業	学力向上推進委員が中心となり児童生徒の学力調査結果について成果と課題を分析し、その内容を踏まえた授業改善を行う。特に、活用力の育成に重点をおいた取組を行う。	A	8・9
教育指導員配置事業	各学校の実態に応じて非常勤講師を配置し、児童の状況に応じたきめ細かな指導を行う。	A	10
グローバル人材育成事業	外国語活動や外国語科英語を中心に、児童生徒の語学力の向上、コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を育成する。	B	11・12

## 評価

平成 26 年 12 月に広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を受けて、平成 27 年度から、児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を目指し授業改善を進めてきた。平成 28 年度は、「海田版『学びの変革』」として、各学校で実践した「課題発見・解決学習」の単元計画や指導案を学校及び町ホームページに公開した。町内外へ発信するとともに、町全体で共有することにより、研究の質を高め、日々の授業改善につなげることができた。広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果は、中学校理科を除いて、県平均を上回ることができ、今後は基礎・基本の確実な定着に加え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化する。

<b>事業の目的</b>
児童生徒の学力の向上を図る。
<b>事業内容</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各校 2 名委嘱した学力向上推進委員が中心となり児童生徒の学力調査結果について成果と課題を分析し、その内容を踏まえた授業改善を行う。</li> <li>小中連携による授業観察・実践交流等を通じた授業改善を行う。</li> <li>小中学校理科担当教員を対象に、実践的な研修を実施し、理科教育の一層の充実を図る。</li> <li>管理職・教育委員会職員等による授業観察を通して、教職員個々の能力・適性に応じた継続的な指導助言を行う（海田式アクション・リサーチ）。</li> </ul>
<b>平成28年度目標</b>
町内教職員で教育研究成果を共有することで、町全体の教育研究の質を高め、児童生徒の確かな学力の向上に資する。
<b>評価指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>広島県「基礎・基本」定着状況調査 各教科通過率 県平均 +5.0</li> <li>児童生徒の主体的な学習を進める上で重要となってくる「自己有用感」「自己肯定感」に関する項目（全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「自分にはよいところがある」）での肯定的回答の割合の県平均との差 小学校 +2.0 中学校 +5.0</li> <li>全国学力・学習状況調査の学校質問紙における、学校全体の学力傾向や課題の共有に関する項目での肯定的回答の割合 95%</li> <li>各中学校区における連携担当者会 年間 60 回</li> <li>海田式アクション・リサーチ 教職員一人当たり年間 3 回</li> </ul>
<b>事業評価</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>広島県「基礎・基本」定着状況調査 通過率の広島県平均との差              小学校 国語+10.3 算数+10.7 理科+12.6              中学校 国語+0.6 数学+5.2 理科-4.9 英語+5.6</li> <li>全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合の県平均との差 小学校 +1.0 中学校 +0.9</li> <li>全国学力・学習状況調査の学校質問紙「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有しているか」の肯定的回答の割合 小学校 100% 中学校 100%              各学校の単元計画や指導案をホームページに掲載し、広く発信するとともに、各校の実践を町全体で共有できる環境を整えた。</li> <li>各中学校区における連携担当者会              海田中学校区 20 回 海田西中学校区 12 回 中学校校区合同 43 回</li> <li>海田式アクション・リサーチ 各学校とも教職員一人当たり年間 3 回実施</li> </ul>

## 今後の方策

- ・児童生徒の主体的な学びを促す「課題発見・解決型」の授業づくりの実践的な研修を重ね、特に小学校では活用力の伸びが見られた。今後も、さらに中学校区での連携を図るとともに、実践事例のホームページでの公開を継続し、各校の取組のよさを交流し合うことで、授業改善を進めていく。
- ・平成 28 年度の事業の精選を行い、広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を更に推進するため、それぞれの研修内容の見直しを図り、より質の高いものへと高めていく。（広島県立教育センターサテライト研修等を活用した理論的、実践的な研修の機会の設定。）
- ・教員の授業改善への意識化を図るための明確な指標を提示する。
- ・児童生徒に達成感を感じさせる取組，一人一人をしっかりと評価するような授業づくりを進め，児童生徒の自己肯定感を高めていく。

<b>事業の目的</b>
各学校の課題を改善するために、特に必要と認められる非常勤講師を配置することにより、児童生徒の状況に応じたきめ細かな指導を行い、生活習慣の確立、児童生徒の基礎学力の定着を図る。
<b>事業内容</b>
各学校の実態に応じて非常勤講師を配置する。
<b>平成28年度目標</b>
児童生徒の学力向上と各学校の課題の改善を目指す。
<b>評価指標</b>
教育指導員を各学校の実態に応じて、効果的に活用できている。
<b>事業評価</b>
<p><b>【配置状況】</b></p> <p>海田小 (3名) 1～6年(算数) 3年(理科) 2・4・5・6年(図工) 2～6年(音楽)</p> <p>海田東小(3名) 2・3年(音楽) 4年(全科)</p> <p>海田西小(1名) 2～4年(音楽・家庭科) 4年(図工)</p> <p>海田南小(2名) 2・3・4年(国語) 6年(理科) 6年(家庭科)</p> <p>海田中 (3名) 国語 保健体育 社会</p> <p>海田西中(2名) 数学 外国語</p> <p><b>【活用状況】</b></p> <p>海田小学校、海田西小学校、海田南小学校、海田中学校、海田西中学校においては、教育指導員を教科指導に活用し、他の職員の授業時数を軽減することで、教材研究や児童生徒と向き合う時間を確保することができた。</p> <p>また、海田東小学校においては、特定の学年のティームティーチング(TT)として活用し、発達障害等の課題を抱えた児童に対する支援を中心に行い、安定した学級経営に効果的に活用できた。</p>
<b>今後の方策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の課題に応じて柔軟に対応するため、配置状況の見直しを図りながら、平成29年度も引き続き継続する。</li> <li>・学力補充や生徒指導等の学校の課題を把握し、教育指導員を効果的に配置する。</li> </ul>

事業の目的

変化の激しいこれからの社会において、様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成するために、外国語活動や外国語科英語を中心に、児童生徒の語学力の向上を図るとともに、コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等の育成に資する。

事業内容

- ・外国語指導助手（ALT）や日本人外国語指導助手（JALT）とのチーム・ティーチングによる外国語活動や外国語科英語の授業の充実を図る。
- ・異なる文化の人との交流を通して、相互理解を深めるとともに、目的や状況に応じたコミュニケーション能力の育成を図る。
- ・外部検定試験を活用して、生徒の英語力を客観的に把握、分析、検証し、日常の授業改善に生かす。

平成28年度目標

- ・英語教育の充実を図り、児童生徒の語学力の向上及び外国の人と英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を目指す。

評価指標

- ・広島県「基礎・基本」定着状況調査（外国語科英語）の正答率：県平均 +8.0
- ・小学校6年生対象の個人面接において、英語による適切な応答ができる児童の割合：80%以上
- ・広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙における設問「外国の人とコミュニケーションを図りたい」肯定的回答率：80%以上
- ・グローバル・キャンプ事後アンケートにおける設問「もっと英語を勉強したくなった」「外国の人や文化に興味をもった」肯定的回答率：80%以上
- ・中学校卒業段階で英検3級程度以上を達成した生徒の割合：65%以上

事業評価

- ・広島県「基礎・基本」定着状況調査（外国語科英語）の県平均との比較

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
+8.8	+13.1	+12.5	+5.6

- ・小学校6年生対象の個人面接において、英語による適切な応答ができる児童の割合（%）

How many apples?	Do you like sports?	Can you play the piano?
92.9	96.8	95.4

- ・広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙における設問「外国の人とコミュニケーションを図りたい」肯定的回答率（%）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
小学校	69.2	68.0	72.4	70.6
中学校	51.4	55.2	68.3	54.6

・グローバル・キャンプ事後アンケートにおける肯定的回答率（％）

	もっと英語を勉強したくなった	外国の人や文化に興味をもった
小学校	100	100
中学校	96.5	100

（対象人数：小学校 8 名 中学校 29 名）

- ・中学校卒業段階で英検 3 級程度以上を達成した生徒の割合：61.8%
- ・小学校においては、平成 32 年度完全実施される中学年外国語活動、高学年の英語教科化に向けた授業づくりを進めることができた。
- ・中学校においては、英語科教員 1 人あたり年 2 回、外部講師（比治山大学准教授）からの指導・助言を受ける機会を設け、授業力の向上を図ることができた。

今後の方策

- ・小学校においては、平成 30 年度より先行実施（平成 32 年度完全実施）される、中学年外国語活動の開始及び高学年の英語教科化に向けたカリキュラムづくり、教材開発を行う。
- ・中学校においては、文法や語彙等の知識の習得にとどまらず、それらの知識を活用してコミュニケーションが図れるよう、総合的な能力の習得を目指して、授業改善に取り組む。
- ・グローバル・キャンプを継続して実施し、異なる文化的背景をもつ人と英語を使って交流を図ることにより、相互理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。
- ・中学生を対象に年 3 回英語能力判定テストを実施し、生徒の英語力を客観的に把握、分析、検証し、日常の授業改善に生かす。

施策

豊かな心の育成

取組と成果

平成 28 年度は、心豊かでたくましい人間の育成を目指し、次のような取組を行った。

- (1) 「心の元気を育てる地域支援事業」の全町展開を掲げ、海田中学校区、海田西中学校区の両中学校区で実施した。
- (2) 不登校や問題行動に対応するため、適応指導教室の設置や教育相談員の配置を行った。
- (3) 競技力の向上を図るため、小学校や中学校部活動において専門的な技術指導を行った。
- (4) 児童生徒がこども議員となり、町議会の運営に準じてこども議会を開催した。

	小学校				中学校			
	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
暴力行為(件)	0	3	2	5	1	24	19	19
いじめ(件)	5	0	7	6	4	10	4	5
不登校(人)	9	10	7	11	32	31	39	40

平成 28 年度全国学力・学習状況調査質問紙 肯定的回答割合 ( ) 県平均 (%)

質問事項	小学校	中学校
地域社会などでボランティアに参加したことがある	71.9 (61.6)	83.4 (77.5)
学校のきまりを守っている	96.6 (93.2)	98.2 (96.5)
友達との約束を守っている	97.0 (97.7)	97.8 (97.8)
人が困っているときは、進んで助けている	89.0 (85.9)	86.9 (86.4)
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	98.9 (97.5)	96.1 (95.7)

重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
心の元気を育てる地域支援事業	児童生徒が他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情が高まる3校合同あいさつ運動とクリーン活動を、継続的に実施する。	A	15
青少年サポート事業	家庭環境や発達障害などの様々な課題を抱える児童生徒を支援するため、個別指導による基礎学力の補充や教育相談等を行い、学校と連携しながら、学級への復帰を支援する。	B	16
競技力向上対策事業	町内高等学校の運動部員や地域の指導者を配置して技術指導等を行い、児童生徒の競技力の向上や部活動の活性化を支援する。	B	17
こども議会運営事業	児童生徒がまちづくりの意識を持つとともに、行政の仕組みや議会の役割への関心を高めるため、こども議会を開催する。	A	18

## 評価

平成 27 年度から、「心の元気を育てる地域支援事業」を全町展開に拡充し、平成 28 年度も継続的な中学校区での小中学校合同あいさつ運動やクリーン活動、また、町内全小中学校が合同であいさつ運動を実施するなど、児童生徒が他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情を高めることができた。

暴力行為やいじめについては、担任、生徒指導主事等複数で適切に対応し、保護者、専門機関とも連携し継続して指導を行った。

不登校対策については、両中学校を中心に、校内別室通室から教室へ復帰できた生徒は増加したものの、不登校生徒の割合が、広島県の平均を大きく上回っており（平成 27 年度県平均 2.6%、海田町 5.2%）、現状を踏まえた対策が必要である。また、小学校での相談・支援件数は少なく、児童の様子や学校との連携については課題がある。

平成 28 年度は、新規事業としてこども議会を開催し、参加したこども議員を中心とした取組を行い、まちづくりや行政の仕組み等を学ぶ機会を提供することができた。

また、海田西中学校において、クリーン活動やこども議会等の町全体を巻き込んだ生徒会活動の功績が認められ、平成 28 年度「広島県教育奨励賞」を受賞した。

読書活動については、町立図書館と連携して「子ども司書」養成講座を実施し、13 名の児童が「子ども司書」に認証された。また、各校に配置している学校司書が中心となり、児童生徒の望ましい読書習慣の形成を図り、日常生活において読書が活発に行われるよう工夫した取組をすすめた。



事業の目的
学校・家庭・地域社会が一体となった体験活動を実施する中で、児童生徒の自尊感情を高め、社会参加の意欲や態度等豊かな心の育成を図る。
事業内容
「あいさつ ふれあい 夢いっぱい 海田町」の地域まるごと宣言のもと、児童生徒が家庭や地域社会とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情が高まる各中学校区合同あいさつ運動とクリーン活動を継続的に実施する。
平成28年度目標
児童生徒の自尊感情や地域社会への参画意識の向上を図る。
評価指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の推進協議会への参画と活動の様子。</li> <li>・自尊感情・社会参画意識が高まり、児童生徒主体の活動ができているか。</li> </ul>
事業評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期1回の推進協議会において、児童生徒代表が積極的に協議に参加し、取組の具体や思いを、自分の言葉で語る姿を見ることができた。その意見がクリーン活動、あいさつ運動や植栽活動の質を高め、児童生徒主体の活動とすることにつながった。これらの状況から、自尊感情や社会参画意識が向上したと評価することができる。</li> <li>・町全体の取組として定着させることができた。</li> <li>・継続した合同あいさつ運動やクリーン活動等の体験活動を通して、児童生徒の自尊感情や社会参画意識を高い水準で保つことができた。</li> <li>・アンケート項目の「思いやり」「規範意識」の肯定的評価はいずれも90%以上で、ボランティア活動やあいさつ運動を通して、多くの人と接し、協力しあったことがこの結果につながったと考える。</li> <li>・2年目を迎えた海田中学校区の活動が計画的・継続的に展開され、活動を各校の児童生徒会の取組として定着させることができた。</li> </ul>
今後の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの取組が町内に定着し、更に活性化するよう、引き続き保護者、地域へ積極的に発信するとともに、児童生徒によるあいさつ運動を積極的に進める。</li> <li>・今後も継続して地域社会への参画の視点から、引き続き植栽活動に取り組み、栽培した植物を地域へ寄贈する。</li> <li>・児童生徒が主体となって企画・運営する取組を推進し、自尊感情の更なる向上を図る。</li> </ul>

事業の目的

個別指導による基礎学力の補充や教育相談等を行い、学校と連携しながら、様々な課題を抱える児童生徒の学校・学級復帰を支援する。

事業内容

- ・ 公共施設の一室に町内適応指導教室を設置し、教員免許所持者を指導員として配置する。
- ・ 教育相談や学力補充等を通して、児童生徒の学校・学級復帰を支援する。
- ・ 教職員や適応指導教室指導員、教育相談員の連携により、指導・相談を実施する。

平成28年度目標

教育相談の充実や、適応指導教室等における児童生徒への学力補充により、不登校傾向にある児童生徒や適応指導教室通室者の学校・学級復帰や社会的自立を促す。

評価指標

- ・ 不登校傾向にある児童生徒に対する教育相談件数
- ・ 校内別室通室者に対する学級復帰者の割合 30%
- ・ 不登校児童生徒の状況を把握するための定期的な連絡会の開催

事業評価

教育相談件数

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
相談件数 (件)	1,045	1,010	1,895	1,569

- ・ 中学校に不登校傾向の生徒が多いことから、適応指導教室指導員、教育相談員を両中学校に常駐させたため、各中学校の生徒の状況把握や指導・相談を行うことができた。
- ・ 小学校へは必要に応じて訪問し、継続的な指導・相談を行ったが、相談件数は少なく、児童の様子把握や学校との連携は十分とはいえない。
- ・ 教育委員会（加藤会館）内に設置した「適応指導教室」は、児童生徒や保護者への周知不足もあり、通室者は1名であった。
- ・ 校内別室通室者のうち、学級に復帰した児童生徒の割合 9人/17人（52.9%）
- ・ 月1回の教育相談員、適応指導教室指導員、教育委員会事務局の3者間の連絡会を継続し、児童生徒の個々の状況や支援の仕方等を学校へ伝え、指導に活かすことができた。

今後の方策

- ・ 教育相談員を増員し、中学校区ごとに支援を行うとともに、適応指導教室を教育委員会のある加藤会館から町内の別の場所に移設し、児童生徒や保護者が通室・相談しやすい環境を整える。
- ・ 保護者向け案内の作成等により青少年サポート事業の周知を図り、不登校児童生徒や保護者からの相談や適応指導教室への通室に繋げていく。
- ・ 引き続き教育相談員、適応指導教室指導員、教育委員会事務局の3者で連絡会を月1回開催し、不登校傾向児童生徒の状況を情報共有するとともに、学校に対して児童生徒への指導・支援体制を整えるよう指導・助言する。

事業の目的

町内高等学校の運動部員や地域の指導者が、技術指導等を行うことにより児童生徒の競技力の向上や部活動の活性化を図る。

事業内容

- ・町内高等学校の陸上部員を指導者として招き、陸上記録会に向けて技術指導等を行う。
- ・原則として中学校の陸上部と野球部に専門的な技術指導力を備えた地域の指導者を配置し、顧問と連携して技術指導等を行う。

平成28年度目標

児童生徒へ指導者による専門的な技術指導等を行い、競技への興味・関心を高めるとともに部活動等の活性化を図る。

評価指標

- ・町内高等学校陸上部員による陸上記録会に向けた指導日数 3回
- ・専門的な技術指導力を備えた地域の指導者による部活動の指導日数 50日(週1回)以上

事業評価

小学校	海田小	海田東小	海田西小	海田南小
指導回数	2	2	2	2
参加児童数(延べ人数)	121	155	84	70

- ・町内高等学校陸上部員の指導により、競技への関心を高めるとともに、種目ごとに分かれて練習等を行い、陸上記録会等に向けて技術指導を行うことができた。

中学校		指導日数	主な大会成績
海田中	野球部	89	—
	陸上部	29	安芸郡・江田島市中学校春季総合体育大会女子総合2位 中国中学生駅伝 男子・女子出場
海田西中	野球部	130	安芸郡・江田島市中学校春季総合体育大会3位 安芸郡・江田島市中学校夏季総合体育大会3位
	陸上部	5	—

- ・適任者の確保が難しく、年間を通して指導者を配置できたのは海田西中野球部のみであった。その他は限定された期間の指導となった。
- ・指導日においては、顧問と連携して地域の指導者による専門的な技術指導を行うことができた。

今後の方策

- ・小学校への指導者の派遣は年3回を予定し、引き続き町内高等学校の運動部員による指導を行う。
- ・中学校への指導者の配置は、野球部と陸上部に限らず、その他の部活動においても必要に応じて配置できるよう事業を拡大する。
- ・情報収集に努め、定期的に指導を行える人材を確保する。

<b>事業の目的</b>
ふるさと海田を再発見し、自分たちのまちづくりという意識の涵養を図るとともに、政治的教養の教育の一環として、行政の仕組みや議会の役割への関心を高める。
<b>事業内容</b>
各校から選出されたこども議員に対し、勉強会や事前準備を行い、実際の町議会の運営に準じてこども議会を開催する。
<b>平成28年度目標</b>
児童生徒が自ら町の問題点や将来像について考え、議会を開催することにより、行政の仕組みや議会の役割に関心を持つとともに、政治参加意識の高揚を図る。
<b>評価指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の問題点や将来像について考え、まちづくりの意識をもつ取組ができたか。</li> <li>・行政の仕組みや議会の役割への関心を高めることができたか。</li> </ul>
<b>事業評価</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・選出されたこども議員は、事前勉強会や町議会議員と行った町内視察を踏まえて、町の問題点や将来像を問う意識の高い質問を行った。</li> <li>・こども議員は、実際の町議会の流れにそった議会を体験し、行政の仕組みや議会の役割を体感した。</li> <li>・公職選挙法等の改正により選挙年齢が引き下げられ、若者世代に対する政治的教養の教育の充実が求められるなか、本事業の実施が小中学生の政治に対する関心を高めることにつながった。</li> <li>・議会後に「こども議会だより」を発行する等の取組を行ったものの、成果がこども議員にとどまっている。</li> </ul>
<b>今後の方策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・選出されたこども議員だけでなく、その他の児童生徒も事業に関わることができるようスケジュールを調整し、各学校の取組の中から一般質問を作成したり、児童生徒向けの報告会を行ったりする時間を確保する。</li> <li>・事前勉強会や本議会を円滑に進めるため、学校担当者連絡会を複数回行う。</li> <li>・最初の質問だけでなく、再質問をしやすいように事前勉強会や本会議の流れを工夫する。</li> <li>・こども議員の提案によるまちづくりを町の取組に反映できるよう、町内各局に連携を図る。</li> </ul>

## 施策

### 児童生徒の安心・安全の確保と質の高い教育環境の整備

#### 取組と成果

平成 28 年度は、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、次のような取組を行った。

- (1) 学校施設の安全を確保するため、施設整備を行った。
- (2) 学校安全ボランティアとして地域の協力を得て見守り活動を実施した。
- (3) 保護者や地域の方に緊急メールとして不審者情報や事件・事故情報を配信した。
- (4) 児童生徒の学習内容理解を支援するため、ICT 機器を整備した。

学校安全ボランティア登録者数（人）

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
登録者数	136	98	98	88

#### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
小中学校安全管理事業	登下校時の学校安全ボランティアを募集し、帽子・腕章を配布し、活動環境を整備する。また、緊急メール配信システムを活用し、不審者情報等の配信を行う。	A	20
小中学校耐震補強事業	学校施設の非構造部材の耐震補強工事等を行う。	C	21
ICT 環境整備事業	ICT 環境の充実により、質の高い教育活動を展開する。	B	22

#### 評価

児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育環境の整備を進めた。

学校安全ボランティアについては、登録者が減少している状況があるが、ボランティア登録者と学校が緊密に連携し、一体となって児童生徒の登校時の安全が確保できた。

学校施設整備については、漏水が発生していた海田東小学校の給排水設備の更新を行い、快適な学校環境の整備が図れた。また、耐震補強工事については、平成 27 年度で耐震化率 100%となり、平成 28 年度は非構造部材の耐震化に向けて事業を進めた。今後も必要に応じて、施設の修繕等を行っていく。

ICT 環境整備については、平成 27 年度に引き続きタブレット端末を各学校に整備することができ、それらを活用した授業研究等を行うことで、質の高い教育活動を展開することができた。

<b>事業の目的</b>															
児童生徒の安全確保及び学校の安全管理を徹底する。															
<b>事業内容</b>															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の小学校新1年生全員に防犯アラームを支給する。</li> <li>・学校安全ボランティアを募集し、ボランティア保険をかけ、帽子・腕章等を配布し、通学路の見回りや、登下校時の児童生徒の見守りを行う。</li> <li>・緊急メール配信システムを活用し、不審者情報等の配信を行う。</li> <li>・学校に配備しているネットランチャーの更新を行う。</li> </ul>															
<b>平成28年度目標</b>															
学校安全ボランティア等の地域の方の協力や教員による通学路の安全点検、緊急メール配信システムの活用等により、児童生徒の安全を確保する。															
<b>評価指標</b>															
児童生徒や学校に対して、事故や犯罪から守るための対策を確実に実施することができたか。															
<b>事業評価</b>															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の小学校新1年生に防犯アラームを支給し、携帯するよう学校だより等で周知を図った。</li> <li>・学校安全ボランティア数は減少している状況であるが、登録している学校安全ボランティアや、自主的に見守りをしてくださった地域の方の活動により、児童生徒が安全に登下校できた。</li> <li>・各校の教員による通学路の安全点検や、警察等関係機関との連絡会を実施した。</li> <li>・緊急メールの配信により、登録者に対し、速やかに必要な不審者情報等の情報配信を行った。</li> <li>・ネットランチャーを更新し、学校の安全管理を充実させることができた。</li> </ul> <p><b>【参考】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校安全ボランティア登録者数</td> <td>98人</td> <td>98人</td> <td>88人</td> </tr> <tr> <td>緊急メール配信登録者数</td> <td>1,384人</td> <td>1,425人</td> <td>1,631人</td> </tr> </tbody> </table>					H26年度	H27年度	H28年度	学校安全ボランティア登録者数	98人	98人	88人	緊急メール配信登録者数	1,384人	1,425人	1,631人
	H26年度	H27年度	H28年度												
学校安全ボランティア登録者数	98人	98人	88人												
緊急メール配信登録者数	1,384人	1,425人	1,631人												
<b>今後の方策</b>															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全ボランティアの登録者数確保に向けて、広報紙等で周知を行う。</li> <li>・学校安全ボランティアや地域の方の協力を得ながら、登下校や学校生活全般に関して、児童生徒にとって安全安心な環境づくりを行う。</li> <li>・不審者や事件・事故などの情報提供・注意喚起を迅速に伝えるため、緊急メールを多くの方に配信できるよう、登録への呼びかけを行う。</li> <li>・各校が毎月行う施設の安全点検を確実に実施するよう指導を行う。</li> </ul>															

事業の目的

学校施設の耐震化を計画的に行い、安全な学習環境を整備する。

事業内容

学校施設の耐震化について、非構造部材の耐震補強工事等を行う。

平成28年度目標

- ・小中学校の体育館のうち3棟（海田東小学校，海田中学校，海田西中学校）について，地震による落下物や転倒物から児童生徒を守るため，非構造部材の耐震補強工事等を行う。

評価指標

- ・小中学校体育館3棟（海田東小学校，海田中学校，海田西中学校）の非構造部材耐震補強工事の完了
- ・非構造部材の耐震化が必要な棟に対する耐震化等の実施割合

年度	H28
全棟数①	24
実施済棟数②	10
H28 実施棟数③	3
未実施棟数	11
実施率 (②+③/①)	54.2%

事業評価

- ・工事を実施するにあたり，関係機関等との調整に日数を要したことにより，契約締結までに日数を要し，平成28年度内に工事が完了できなかった。

今後の方策

平成28年度内に完了しなかった3棟（海田東小学校，海田中学校，海田西中学校）の非構造部材の耐震補強工事等を行い，その他未実施の棟については，順次耐震化を進める。



<b>事業の目的</b>																				
ICT 環境を整備し、ICT 教材の開発等、タブレットを活用した教師の授業力の向上を図り、児童生徒の学習内容理解を支援する。																				
<b>事業内容</b>																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット等の ICT 機器を各小中学校に整備する。</li> <li>・児童生徒の理解や思考を促す ICT 機器の活用について、各校で授業実践を重ね、それを交流することで共有を図る。</li> </ul>																				
<b>平成28年度目標</b>																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校へ ICT 機器を整備し、効果的な活用を行う。</li> <li>・タブレットの様々な活用方法を研究し、各校で実践を行い、成果と課題を集約する。</li> <li>・教諭等が年に1回以上タブレットを活用した授業を行い、その学習指導案または実践事例報告書を作成する。</li> </ul>																				
<b>評価指標</b>																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器の整備状況</li> <li>・タブレットを小中学校の授業で活用した教諭の割合 50%</li> <li>・町内研修会の開催状況</li> </ul>																				
<b>事業評価</b>																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器の整備状況（合計）</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">学校名</th> <th style="width: 12.5%;">海田小</th> <th style="width: 12.5%;">海田東小</th> <th style="width: 12.5%;">海田西小</th> <th style="width: 12.5%;">海田南小</th> <th style="width: 12.5%;">海田中</th> <th style="width: 12.5%;">海田西中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校別台数 (特別支援学級配布台数)</td> <td>6 (1)</td> <td>8 (3)</td> <td>5 (2)</td> <td>9 (2)</td> <td>13 (3)</td> <td>9 (1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>小中学校へ新たに 21 台のタブレットを整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを小中学校の授業で活用した教諭の割合 68.1% すべての教科において活用が見られた。(延べ実践事例報告書数 98 件)</li> <li>・研修会の開催 5回 ICT 推進研修会での外部講師やサテライト研修の活用により、ICT 機器の有効な活用方法を学ぶとともに、各学校のタブレット活用実践における成果と課題を報告する機会を設けたが、実践事例報告書の作成には至らなかった。</li> </ul>							学校名	海田小	海田東小	海田西小	海田南小	海田中	海田西中	学校別台数 (特別支援学級配布台数)	6 (1)	8 (3)	5 (2)	9 (2)	13 (3)	9 (1)
学校名	海田小	海田東小	海田西小	海田南小	海田中	海田西中														
学校別台数 (特別支援学級配布台数)	6 (1)	8 (3)	5 (2)	9 (2)	13 (3)	9 (1)														
<b>今後の方策</b>																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度の活用事例や成果と課題から、効果的な活用方法の研究を進める。</li> <li>・特別支援学級においては、タブレット等の活用による視覚的な支援が授業において特に有効であるため、特別支援学級を中心に、授業活用を推進し、カリキュラム作成へ繋げていく。</li> <li>・積極的に ICT 機器を使用できるよう、引き続き、タブレット等を購入し、ICT 機器を整備する。 (H29 購入予定台数 小学校 16 台、中学校 5 台)</li> <li>・各種研修会において、ICT 機器を用いた授業に取り組み、効果的な使用方法の研究を進める。</li> </ul>																				



## 施策

### 生涯学習の推進

#### 取組と成果

平成 28 年度も引き続き、「いつでも・どこでも・だれでも」学習でき、その学習成果が適切に評価・活用されることを目指し、次のような取組を行った。

- (1) 学習ニーズに対応した学習機会の確保・充実を図った。
- (2) 人材の発掘・養成と積極的な活用を行った。
- (3) 社会教育施設の整備・充実を図った。
- (4) 豊かな人間性をはぐくむ読書活動を推進した。

#### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
公民館管理運営事業	青少年育成講座及び定期講座等の、住民の自発的な生涯学習活動を支援することにより、公民館活動を推進する。	B	24
公民館主催講座事業	子供、大人から高齢者まで、それぞれの世代に応じた主催講座を開催する。	B	25
公民館整備事業	新海田公民館整備に向けて、基本設計を行う。	A	27
図書館管理運営事業	住民の多様な読書活動に応じることができるよう、きめ細やかなサービスを提供するとともに、快適な施設環境を整える。 また、ガイドブックの活用促進や読書感想文コンクールの実施について、町内 6 つの小中学校と連携を図る。	A	28
蔵書整備事業	住民のニーズに応じた図書等資料の収集や情報の提供を行い、読書の推進や図書館の利用促進に努める。また、子育て世代を対象にした育児書・児童書の充実を図る。	A	30

#### 評価

公民館 2 館と図書館がそれぞれの施設の特性を活かし、住民の多様な学習ニーズに対応した事業を展開することができた。今後は、さらに各館の重点施策を明確にして事業を展開させていくことが重要である。

公民館

事業名

評価

公民館管理運営事業

B

<b>事業の目的</b>				
生涯学習の場として、幅広い世代の住民へ学習機会や集会の場を提供することにより、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。				
<b>事業内容</b>				
青少年育成講座及び定期講座等の、住民の自発的な生涯学習活動を支援することにより、公民館活動を推進する。				
<b>平成28年度目標</b>				
子供、大人から高齢者まで、様々な自主活動と社会参加を支援するとともに、関係団体との連携協調を図り、人材の発掘を目指す。				
<b>評価指標</b>				
公民館延利用者数（数値目標：120,000人）				
<b>事業評価</b>				
○公民館年間利用状況（※公民館事業は、主催講座と自主講座の年間延利用者数）				(人)
利用者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
公民館事業	72,366	72,489	75,783	78,217
一般利用	27,862	20,899	23,605	27,267
計	100,228	93,388	99,388	105,484
○自主講座在籍者数				
・青少年健全育成講座				
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
講座数	21	19	18	19
在籍者数(人)	460	321	297	299
・定期講座				
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
講座数	120	115	111	110
在籍者数(人)	1,774	1,696	1,643	1,668
<b>今後の方策</b>				
自主講座において、青少年健全育成講座、定期講座とも講座数が減少傾向にある現状を踏まえ、学習意欲の向上が図られるような新たな活動を模索し、自主的な活動への展開ができるよう取り組む。なお、数値目標としての公民館延利用者数については、これまでの推移を踏まえ、達成可能な設定とする。				

公民館

事業名

公民館主催講座事業

評価

B

事業の目的

地域住民の多様な学習要求に応えるため、公民館が主催する講座を開設する。

事業内容

- ・子供、大人から高齢者まで、それぞれの世代に応じた主催講座を開催する。
- ・将来の地域リーダーを養成するため、「未来のまちのおせっかいさん」養成講座を開設する。

平成28年度目標

- ・各世代のニーズに応じた講座を開催することで、参加者の満足度の充実に努める。
- ・「未来のまちのおせっかいさん」が、自立した団体としてワークショップ等を通じた活動を継続するとともに、新たな人材発掘に努め、組織体制を検討していく。

評価指標

- ・主催講座の充実に努めたか。
- ・「未来のまちのおせっかいさん」について、自立した活動が継続できたか、また、組織体制の方向性を定めることができたか。

事業評価

- ・高齢者学級やジュニアサマースクール等の継続事業については内容を工夫して実施し、新規事業では、日本の伝統文化や退職世代をテーマとした講座等も開設した。事後アンケートの満足度や聞き取りによる評価も好評であり、内容の充実に努めることができた。
- ・「未来のまちのおせっかいさん」は、ワークショップ等を自主運営するとともに、自主企画でのイベント実施など、積極的な活動に取り組むことができた。一方で、組織体制については、団体としてのあり方や今後の方向性が定まらなかった。

○家庭教育支援事業「未来のまちのおせっかいさん養成講座」

養成講座を開催し、防災イベント『親子で防災を学ぼう！』を実施するとともに、活動内容をお知らせするため、「海田町おせっかい情報誌（防災版）」を作成し、町内小学校や保育所、幼稚園を通じて配布を行うことで、団体の活動について周知が図れた。

- ・ワークショップ・企画会議 15 回開催（参加者 74 人）
- ・防災イベント（参加者 18 組 52 人） 他

○【新規】セカンドライフ講座

退職世代を対象に、健康維持や地域参加の方法等について学び、退職後の人生をより充実したものにするを目的に実施した。（開催回数 7 回、参加者 127 人）

○【新規】防災講座

地震・台風等の自然災害の怖さを認識し、いざという時にどう行動するかなど、適切な対応方法や水害の特徴、水害防止のあり方を学ぶことを目的に実施した。（参加者 15 人）

○【新規】町制施行 60 周年記念事業『かいた今昔写真展』

現在の町制が施行され 60 周年を迎えることを記念して写真展を開催。

昭和 30～40 年代を中心にして 50 枚程度の写真を選び出し、当時と同じ場所・方向の写真を撮影し比較展示。「ふるさと海田」がどのように変遷したのかを、来場者の“眼”で実感することを目的に実施した。(開催期間 2 日間, 来場者 171 人)

○【新規】「しめ縄作りと餅つき」

お正月を前に、未就学児から小学生とその保護者を対象として、日本の伝統文化について体験することを目的に実施した。(参加者 12 組 24 人)

○青少年育成事業 (ジュニアサマースクール)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
講座数	13	14	15	15
参加者(人)	288	273	271	254

○高齢者学級 (寿大学, 延寿大学)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
講座数	2	2	2	2
参加者(人)	396	396	223	255

今後の方策

主催講座のメニューや内容の充実を図るとともに、受講生には講座で得た知識や経験を地域に還元する場を提供できるよう、また、人材の育成を通して、自発的な運営が継続していけるよう支援を行う。

新海田公民館が開館する平成 32 年を目途に、中長期的な視点で主催講座のあり方を検討する。

公民館

事業名

評価

公民館整備事業

A

事業の目的
築40年を超えて著しく老朽化した海田公民館を建て替える。
事業内容
基本計画の策定、基本設計業務及び実施設計業務の実施後、新海田公民館を建設する。
平成28年度目標
地域活動の拠点・生涯学習を推進する場として機能的で魅力ある公民館となるよう、平成27年度に策定した基本計画を基に、基本設計業務を実施する。
評価指標
平成32年度の開館に向けて、地域活動の拠点・生涯学習を推進する場として機能的で魅力ある公民館とするための基本設計業務をスケジュールどおり実施できたか。
事業評価
<ul style="list-style-type: none"><li>・スケジュールどおり年度内に基本設計業務を完了させることができた。</li><li>・機能的で魅力ある公民館とするため、海田公民館整備特別委員会を計6回開催し、その中で出された意見・要望を可能な限り取り入れ、設計に反映させた。</li><li>・限られた予算と建設スペースの中で機能的で魅力ある公民館とするため、基本設計業務の受託業者との連絡・協議を密にした。</li></ul>
今後の方策
より良い公民館建設のため、基本設計業務の内容を踏まえて実施設計業務を実施し、その後、建設工事に着手する。

事業の目的

住民が心豊かな生活を実現することができるよう、知の拠点として快適な読書環境を整え、住民の生涯学習や文化・教育、社会活動等の進展に寄与する。

事業内容

- ・住民の多様な読書活動に応えることができるよう、きめ細やかなサービスを提供するとともに、快適な施設環境を整える。
- ・小中学校と連携して児童生徒用ガイドブックの活用を行うとともに、読書感想文コンクールを実施する。
- ・子供向け、大人向けの主催講座を開催する。
- ・保健センターや民生委員・児童委員と連携し、ブックスタート事業を行う。

平成28年度目標

- ・小・中学校との連携により、児童生徒用ガイドブックを活用し、読書活動を推進する。
- ・ニーズや話題性等を考慮し、主催講座の内容の充実を図る。
- ・幼児・児童コーナーの活用を図る。
- ・前年度に実施した利用者アンケートでは把握できなかった内容等について、再度利用者アンケートを実施し、今後の図書館運営に活かす。
- ・新たなボランティアの発掘・育成と活動中のボランティアのスキルアップを図る。

評価指標

- ・貸出冊数 150,000 冊
- ・主催講座参加者の満足度
- ・赤ちゃんのためのおはなし会参加者数 900 人

事業評価

- ・利用者数、貸出冊数ともに前年度に比べ減少したが、小中学生の貸出冊数については、増加した。
- ・時機にかなった講座等の開催により、参加者の満足度は全体的に高かった。
- ・幼児・児童コーナーを会場に子供向け講座を開催し、同時に講座内容に合った図書の展示を行うことにより、貸出につなげるなど、幼児・児童コーナーの活用を図ることができた。
- ・ブックスタートのフォローアップ事業として位置付けている「赤ちゃんのためのおはなし会」の参加者数は増加傾向にある。
- ・利用者アンケートでは、「優先的に行うべきサービス」など、今後の図書館運営に参考となる事項について把握することができた。
- ・これまでの30年間の読み聞かせの活動が、図書館の利用促進や読書活動の充実に貢献しているとしてその功績が認められ、ボランティアグループ「ももたろうくんのおはなし会」が平成28年度「広島県教育賞」を受賞した。

○図書館資料貸出冊数 ※（ ）内は、分館の実績 (冊)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
貸出冊数	154,291 (13,394)	149,517 (13,271)	155,513 (14,957)	155,177 (13,958)

○小中学生貸出冊数 (冊)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
貸出冊数	33,133	30,481	31,003	31,485

○主催講座参加者の満足度（アンケートで「満足」と回答した割合）

- ・人形劇公演 82.4%
- ・文化講座Ⅰ「絵本『新井貴浩物語』にみる宮沢賢治の心」 81.8%
- ・文化講座Ⅱ「これが広島弁じゃ！～華麗なる広島弁のセカイ～」 90.9%
- ・おはなしボランティア養成講座「楽しい紙芝居講座」 72.7%

○赤ちゃんのためのおはなし会参加者数 (人)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
参加者数	594	698	816	957

○利用者アンケート結果

【優先的に行うべきサービス】 (%)

資料の充実	38.1
情報提供	9.8
施設・設備の充実	9.3
高齢者向けサービス	8.4
子供向けサービス	5.4
行事の開催	3.5
中高生向けサービス ほか	14.9
無回答	10.6

今後の方策

分館や小中学校と連携して情報の共有化や事業の広報を徹底させるとともに、広島県立図書館や町の他部署とも連携して事業を行い、図書館利用の促進を図る。

引き続き、新規ボランティアを募集し、裾野を広げながら、ボランティアグループの育成に取り組む。

事業名

評価

蔵書整備事業

A

<b>事業の目的</b>				
住民の多様なニーズに対応した図書等資料の整備を進め、住民に必要な情報提供や調査等の支援を行い、住民の生涯学習等の推進を図る。				
<b>事業内容</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民のニーズに応じた図書等資料の収集や情報の提供を行う。</li> <li>・幼児・児童コーナーを活用し、児童向け資料や子育て世代を対象とした育児書等の充実を図る。</li> </ul>				
<b>平成28年度目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のニーズを的確に把握し、各種選定資料などを参考に広範なジャンルの図書を整備する。</li> <li>・展示方法等に工夫を加え、利用促進を図る。</li> </ul>				
<b>評価指標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リクエストによる資料整備状況</li> <li>・児童向け図書資料の充実が図られたか。</li> <li>・貸出冊数 150,000 冊</li> </ul>				
<b>事業評価</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リクエストに応えながら、特定の領域に偏らせることなく蔵書を整備することができた。</li> <li>・学校司書や読書ボランティアと連携して児童に必要な図書を整備し、児童の学習環境を整えることができた。</li> <li>・新着図書や講座内容に合った図書の展示方法を工夫し、利用促進を図ることができた。</li> </ul>				
	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
図書館間相互貸借件数 (借受) (件)	12	23	31	41
リクエストによる購入冊数 (冊)	105	141	143	157
貸出冊数 (冊)	154,291	149,517	155,513	155,177
蔵書冊数 (冊)	122,537	124,347	126,602	128,888
うち児童書 (冊)	40,289	41,213	42,317	43,325
<b>今後の方策</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、図書館職員の資質・能力の向上に努め、選書や書架の配置等を適切に行うとともに、各分館のリクエストや要望等にも応えながら、蔵書整備を進める。</li> <li>・利用者ニーズや地域社会の状況の変化に合わせて積極的に蔵書を更新することにより、利用促進を図る。</li> </ul>				



## 施策

### 地域文化の継承と創造

#### 取組と成果

平成 28 年度も引き続き、住民が主体となって地域文化を守り、生かし、生み出す活動がおこなわれることを目指し、次のような取組を行った。

- (1) コンサートや事業の実施を通して、芸術・歴史文化の学習・体験機会の確保に努めた。
- (2) 住民の文化活動の支援を行った。
- (3) 指定文化財の公開や管理・展示のほか、教育普及事業を通して文化財等の保存と活用を推進した。

#### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
文化財保護事業	地域の文化財保護意識を高めるため、指定文化財の公開や、施設における展示・事業を実施する。	A	32
芸術文化振興事業	優れた芸術文化にふれる機会を提供するとともに、各団体が主体的に文化振興事業を実施できるよう支援する。	A	34

#### 評価

文化財保護事業については、指定文化財を適切に管理するとともに、町制施行 60 周年の機会をとらえて、新たな文化財保護事業を実施することができ、広く町内外に海田町の歴史文化について発信することができた。地域学習の場として学校利用も徐々に増えてきており、次の世代へ地域の文化財を守り伝える活動も定着しつつある。

芸術文化振興事業については、住民団体等と連携し、音楽を中心に様々な芸術文化にふれる機会を提供できた。

事業名

評価

文化財保護事業

A

## 事業の目的

地域に残る文化財や地域資料を適切に保護・管理・活用し，地域の歴史や文化に関する理解・関心を高める。

## 事業内容

- ・旧千葉家住宅をはじめとする指定文化財の保存管理を適切に行う。
- ・ふるさと館及び旧千葉家住宅の運営を通して，歴史資料の収集，保管，展示，調査研究及び教育普及活動等を行う。

## 平成28年度目標

- ・町関連資料を効果的に活用した，展示・事業を開催する。
- ・地域の歴史を学ぶ場として学校教育との連携を促進する。

## 評価指標

- ・町関連資料を有効に活用した，展示・事業内容を充実させ，集客を図ることができたか。
- ・学校教育との連携を促進することができたか。

## 事業評価

- ・海田町町制施行 60 周年の機会をとらえ，地域の文化財保護意識を高め，当該地域の新たな魅力を創出するため，「旧千葉家住宅×三宅家住宅美術展」を住宅の公開とあわせ開催した。教育委員会主催の同記念事業（シンポジウム・かいた今昔写真展）と同時開催とすることで，効果的な集客が図れ，海田町の文化財の魅力を広く発信することができた。
- ・旧千葉家住宅について，月 4 回の一般公開に加え，随時団体見学を受入れ，来場者が増加した。

○「旧千葉家住宅×三宅家住宅美術展」（平成 28 年 9 月～11 月，計 10 日間開催）

来場者数 2 会場 延べ 1,538 人

○旧千葉家住宅見学者数 (人)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
見学者数	1,466	1,171	1,595	1,808

- ・ふるさと館では，資料整理を継続し，常設展示を展示替えしたほか，新収蔵資料も活用して，企画展「むかしのくらし展」「ふるさと館のひなまつり展」を開催し，来館者数の増加につなげることができた。
- ・企画展「むかしのくらし展」については，小学校 3・4 年の単元に即した内容とし，ボランティアの協力を得て見学来館の際に体験プログラムを実施した。その結果，町内外の小学校など 8 団体延べ 424 人が来館したが，前年度に比べ 32 人減少した。

○ふるさと館来館者数 (人)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
来館者数	5,705	8,095	10,040	10,326

- ・旧千葉家住宅・ふるさと館ともに、町内の地域学習の場として、見学・解説等の対応を行った。その結果町内小中学校の他、保育園・高等学校など幅広い利用があった。また、町教職員の研修の場としての利用がみられるなど、学校教育との新たな連携が生まれた。

○学校利用回数（教職員研修を含む） (回)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
旧千葉家住宅	2	1	2	6
ふるさと館	10	8	13	13

今後の方策

- ・旧千葉家住宅については、文化財としての適切な保護と公開活動を両立させるため、公開について、効果的な方法・内容を検討していく。
- ・旧千葉家住宅主屋活動室（平成 28 年度整備済）を効果的に活用するため、一般公開日の設定を見直すとともに、展示等を計画的に行い、集客を図る。
- ・地域学習の場としての利用を促進するため、引き続き学校教育との連携を進める。
- ・ふるさと館と旧千葉家住宅の機能の役割分担を明確にする。

## 事業の目的

演奏会やコンサート等を文化団体と連携して実施することにより，住民が芸術文化に接する機会を提供し，芸術文化への関心を高める。

また，文化団体の活動を支援し，地域文化の振興を図る。

## 事業内容

NHK 交響楽団の団員・団友で構成される「エクシモン弦楽四重奏団」によるクラシックコンサートの開催や，海田町民文化振興会及び音楽祭実行委員会と協働し，小学生から一般までの団体が一堂に会しての演奏会等の芸術文化事業を実施する。

また，海田町民文化振興会及び音楽祭実行委員会に対し，それぞれ補助金を交付し，事業運営を支援する。

## 平成28年度目標

来場者を増やし，より多くの住民に優れた芸術文化にふれあう機会を提供する。

## 評価指標

- ・充実した芸術文化活動を実施したか。(来場者数及び満足度の維持以上 ±5%以上)

## 事業評価

- ・参加者数

(人)

イベント名	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
クラシックコンサート	140	151	191	157
はじめて音楽会	102	147	120	120
ふれあいコンサート	900	1,000	850	923
合計	1,142	1,298	1,161	1,200

- ・満足度調査（「よかった」と答えた人の割合）

(%)

イベント名	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
クラシックコンサート	87.9	93.9	81.2	86.0
はじめて音楽会	88.6	92.2	92.3	93.8
ふれあいコンサート	91.8	94.0	92.5	95.8
平均	89.4	93.4	88.7	91.9

- ・来場者数，満足度とも求める基準を超えている。

## 今後の方策

- ・優れた芸術文化にふれあう機会を提供する事業として，継続して事業を実施する。
- ・多くの町民に会場してもらえよう，また満足度を高めるよう，情報発信方法や内容等の工夫・研究を行う。
- ・新海田公民館の開館時に文化協会が活動を開始できるよう，計画的に準備を進める。

## 施策

### 青少年の健全育成

#### 取組と成果

平成 28 年度は、青少年の健全育成を目指し、家庭や地域と連携を図りながら、次のような取組を行った。

- (1) (放課後子供教室) 地域のボランティアスタッフとともに、内容や開催場所について検討し、より多くの児童が参加しやすいプログラムを実施した。
- (2) (放課後子供教室-学びの広場) 元教員によるスタッフが、幅広い学年の児童を対象に放課後の学習支援を行った。
- (3) (青少年育成事業) 交付した補助金を元に、青少年育成海田町民会議が、大学生の協力等を得ながら、防災デイキャンプ等の青少年健全育成事業を実施した。

#### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
放課後子供教室事業	季節に応じた遊びや工作、食体験等のプログラムを月 3 回程度開催するとともに、福祉部局との連携を図りながら、小学生の学習支援を月 4 回程度開催する。	A	36
青少年育成事業	青少年育成海田町民会議への補助金交付を通じて、青少年の健全育成を図る。	A	37

#### 評価

地域や家庭をはじめ、様々な人との関わりの中で、子供たちに様々な体験を提供することができた。今後も、より発展した活動を目指し、ニーズの把握と新たなプログラム（事業）の企画・実施に努める。

## 事業の目的

放課後や休日の子供たちの安全・安心な活動場所（居場所）を設け、さまざまなプログラムを提供することで豊かな人間性を育む。

## 事業内容

- ・季節に応じた遊びや工作，食体験等のプログラムを月3回程度開催する。
- ・福祉部局との連携を図りながら，小学生の学習支援教室を月4回程度開催する。

## 平成28年度目標

- ・放課後や休日の子供が健やかに活動できるよう，より充実したプログラムを提供する。
- ・学習支援教室「学びの広場」の活動を定着させる。

## 評価指標

- ・放課後や休日の子供の健やかな活動場所として，工夫されたプログラムを提供し，参加者数を増やすことができたか。
- ・学習支援教室「学びの広場」の活動を定着させ，安定した利用があったか。

## 事業評価

- ・地域のボランティアスタッフが積極的に関わり，プログラムの内容や開催場所についてリニューアルを図った結果，定期・特別プログラムについては，1回の教室で平均39.9人の児童の参加があった。
- ・福祉部局と連携して海田児童館で開催した学習支援教室「学びの広場」では，元教員によるスタッフが熱心に取り組み，幅広い学年の児童の利用（固定・都度）があり，放課後の活動として定着してきた。

## ○定期・特別プログラム（遊び・工作・レクリエーションなど）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
開催回数（回）	44	43	42	41
参加児童数（人） （1回あたりの人数）	1,279 (29.1)	1,374 (32.0)	1,722 (41.0)	1,636 (39.9)

## ○学習支援教室「学びの広場」※H27より事業開始

	H27年度	H28年度
開催回数（回）	45	47
参加児童数（人）（1回あたりの人数）	1,234 (27.4)	1,206 (25.7)

## 今後の方策

- ・今後も充実したプログラムを提供できるよう，スタッフの拡充を図る。
- ・定期・特別プログラムについては，時期やテーマの選択を適切に行い，内容の更新を図りながら展開する。
- ・学習支援教室「学びの広場」については，情報共有など小学校との連携を進める。

生涯学習課

事業名

評価

青少年育成事業

A

<b>事業の目的</b>
次世代を担う子供や若者の健全育成を推進し、豊かな人間性を持ち自ら考えることができる青少年を育てる。
<b>事業内容</b>
青少年育成海田町民会議へ補助金を交付し、充実した事業運営が行えるよう支援する。
<b>平成28年度目標</b>
補助金の交付を通じて、青少年健全育成活動団体を支援し、地域における青少年健全育成活動を推進する。
<b>評価指標</b>
青少年育成海田町民会議について、補助金を適切に活用し、充実した青少年の健全育成事業を行っているか。
<b>事業評価</b>
青少年育成海田町民会議は、全自治会長や学校、団体等が会員となって地域全体であいさつ運動やのぼり旗の配布など啓発活動に継続して取り組んだ。新規事業として、大学生の協力を得ながら防災デイキャンプを実施するなど、青少年に直接働きかける事業を実施し、青少年の健全育成に貢献した。また、海田町社会教育委員会において、青少年の健全育成に取り組む団体を支援するという補助金の交付目的は概ね達成できているとの評価を得た。
<b>今後の方策</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・青少年育成という趣旨に沿った事業を今後も展開できるよう、青少年育成海田町民会議への支援を行う。</li><li>・生涯学習活動、芸術文化活動、スポーツ活動等として実施している青少年健全育成事業との連携・協働に取り組む。</li></ul>

## 施策

### スポーツのまち・海田づくり

#### 取組と成果

平成 28 年度は、スポーツのまち・海田づくりを目指し、次のような取組を行った。

- (1) 各種大会等の開催により、住民が生涯にわたってさまざまなスポーツに親しんでいける環境づくりに取り組むとともに、関係団体へ補助金を交付・支援することでスポーツの普及を進めた。
- (2) 日本人初のオリンピック金メダリストである織田幹雄さんの偉業を継承し、その魅力を広く発信するとともに、関係団体への補助金交付を通じてスポーツの振興を図った。

#### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
スポーツ振興事業	住民が気軽に参加できるスポーツ大会等を実施するとともに、関係団体と協働で事業を実施し、スポーツの普及に取り組む。	A	39
織田幹雄顕彰事業	ツールの制作等により織田幹雄さんの偉業を継承・その魅力を町内外に発信するとともに、織田幹雄国際陸上競技大会への補助金交付を通じてスポーツ振興を図る。	A	40

#### 評価

スポーツのまち・海田づくりのため、住民が気軽に参加して楽しめる生涯スポーツ及び競技力向上を目指す競技スポーツの普及を関係団体とも連携して推進した。大会・イベント等の実施に加えて、当町出身で日本人初のオリンピック金メダリストである織田幹雄さんの偉業・魅力をより積極的に町内外に発信してスポーツのまち・海田づくりに努めた。

今後とも、生涯スポーツと競技スポーツのバランスを保ちながら、住民が生涯にわたってさまざまなスポーツに親しむことのできる生涯スポーツの環境づくりを推進する。



## 事業の目的

住民がさまざまなスポーツに親しむことができ、また、体力・競技力の向上も図れるような各種スポーツの普及に取り組む。

## 事業内容

- ・誰もが気軽に参加可能なスポーツ大会等を開催する。
- ・海田町体育協会、海田町スポーツ少年団及び織田幹雄スポーツ振興会に補助金を交付し、協働で事業を実施する。

## 平成 28 年度目標

誰もが気軽に参加できるスポーツ大会等を開催するとともに、補助金交付等による各補助団体の活動支援を通じて住民の体力・競技力向上を図る。

## 評価指標

- ・開催事業の参加者数 前年度以上。
- ・補助団体が補助金を適切に活用して事業運営を進めているか。

## 事業評価

- ・開催事業参加者数は増加した。(人)

事業名	開催日	人数		
		H27 年度 (A)	H28 年度 (B)	増減 (B)-(A)
プール開放事業	7/21 (木) ~8/19 (金)	3,495	3,767	272
子供スポーツ交流会	7/24 (日)	中止※1	116	—
体育の日記念 GG※2 大会	10/10 (月・祝)	362	387	25
駅伝大会	2/19 (日)	678	898	220
クロスカントリー駅伝大会	10/23 (日)	— ※3	26	—

※1 雨天のため中止

※2 GG：グランドゴルフ

※3 平成 28 年度からの新規事業

- ・3 団体に対して補助金を交付した。(海田町体育協会 1,010,000 円、海田町スポーツ少年団 450,000 円、織田幹雄スポーツ振興会 1,000,000 円)
- ・各団体は補助金を有効に活用して各種事業を実施しており、海田町社会教育委員会議において、住民の体力・競技力向上及びスポーツ活動の推進に貢献しているとの評価を得た。

## 今後の方策

- ・引き続き、誰もが楽しく気軽に参加できるスポーツ大会等を開催する。
- ・補助団体と連携し、住民のスポーツ活動の推進・機会拡充に努める。
- ・平成 32 年度の新海田公民館の開館にあわせて、より充実したスポーツ環境を構築するため、既存団体の統廃合を含め、新しい推進体制について検討を始める。

<b>事業の目的</b>
日本人初のオリンピック金メダリストである織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外に発信するとともに、補助金交付団体を通じて次世代のアスリート育成などスポーツ振興を図る。
<b>事業内容</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外に発信する。</li> <li>・補助団体へ補助金を交付することで、団体の事業運営を支援する。</li> </ul>
<b>平成28年度目標</b>
織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外に発信すること及び今後もそれを広く効果的に発信するための動画やレプリカ等の資料を制作するとともに、補助団体への補助金交付を通じてスポーツ振興のための事業運営を支援する。
<b>評価指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・織田幹雄さんの偉業・魅力を町内外へ発信したか。</li> <li>・織田幹雄さんの偉業・魅力を広く効果的に発信するためのツールを制作したか。</li> <li>・補助金交付団体が補助金を有効に活用して活動しているか。</li> </ul>
<b>事業評価</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町制施行60周年記念事業としてシンポジウム「世界人・織田幹雄 生誕のまち・海田」を開催し、157人の聴講者に対して織田幹雄さんの偉業・魅力を伝えた。</li> <li>・織田幹雄ポロシャツを制作して全職員（教職員を含む）に貸与、指定日に全職員が着用した。着用初日にはテレビ局の取材を受け、同日放映された。</li> <li>・織田幹雄さんの競技者としての活躍や、指導者としての功績を紹介する動画を制作した。</li> <li>・出前講座や町立小中学校で利用する展示用のスパイク・ディプロマ・金メダルのレプリカ等の「ティーチャーズ・キット」を制作した。</li> </ul>
<b>今後の方策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作した動画や「ティーチャーズ・キット」を効果的に利用して、織田幹雄さんの偉業・魅力を広く発信する。</li> <li>・補助団体への補助金交付を通じてアスリート育成・スポーツ振興を推進するとともに、織田幹雄さんの偉業をより広域的に顕彰する。</li> </ul>

### Ⅲ 総括

#### 学校教育課

海田町の学校教育の基本理念である『夢を持ち、夢を語ることのできる』児童生徒の育成」を目指して教育活動を進めてきた。

平成 28 年度は、児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を目指し、「海田版『学びの変革』」を町全体で共有して研究の質を高め、授業改善を進めてきた結果、学力面では一定の成果がみられた。

また、心豊かでたくましい人間の育成を目指して取組を行った結果、児童生徒の自尊感情・社会参画意識を高めるとともに、児童生徒が主体となった取組につなげることができた。

##### 【平成 28 年度新規事業】

- ・ 学校経営支援事業
- ・ こども議会運営事業
- ・ 海田東小学校本館給排水設備等更新事業

#### 生涯学習課

『人がつながり、夢を育む』生涯学習の推進」を図ることを目標に、住民一人ひとりが様々なスポーツに親しみ、優れた芸術文化に触れる機会の提供に努めた。

平成 28 年度は、それぞれの事業の特性・課題等を認識した上で、数年先の展望を意識した事業や諸活動を継続し、概ね充実した内容となった。

また、町制施行 60 周年の機会を捉え、文化・スポーツ両分野で様々な記念事業を企画・実施した。関係諸団体との連携が促進されるとともに、新たな地域文化の魅力を創出することができた。

##### 【平成 28 年度新規事業】

- ・ 公民館整備事業
- ・ 織田幹雄顕彰事業

#### IV 評価委員の点検・評価

平成29年度海田町教育委員会点検・評価報告書案（平成28年度対象）について、平成29年8月4日に海田公民館においてヒアリングを実施しました。評価結果の根拠、評価の判断・解釈の適切性、今後の方策の不明な点や疑問点などについて質疑を行いました。

今回のヒアリングの中で、とくに次のことが話題となりました。

1 学校教育の施策の柱である広島県教育委員会の策定した「学びの変革」アクション・プランに基づいた課題発見・解決学習の推進について、教育委員会のホームページでその実践を積極的に発信しており、評価できます。平成29年度は「学びの変革」3年目で節目の重要な年であり、海田版「学びの変革」の着実な推進とアピールが期待されます。

2 今日の教育課題に対応するためには、学校教育課と生涯学習課の連携・協働がますます重要となっています。本報告書案を読むと、2つの課の連携が意識されており、評価できます。今後も引き続き、この方向性での一層の発展が期待されます。

ヒアリングを踏まえて評価結果の変更や補足などをおこなった報告書案の修正版が8月30日付けで外部評価員のもとに送付され、その修正箇所について確認しました。

その結果、平成29年度海田町教育委員会点検・評価（平成28年度対象）は適切であると判断します。

外部評価員

広島大学大学院教育学研究科

教授 曾余田 浩史